巻頭言

山梨県知事　長崎　幸太郎

実質的な国際交流、すべての人が活躍できる共生社会を目指して

山梨県は、東京圏に隣接しながら、富士山や南アルプスの雄大な自然、四季折々の美しさ、そして豊かな山々と森に育まれた清らかな水に恵まれた「水と緑の宝庫」です。このかけがえのない魅力は国内外に広がり、2024 年には外国人観光客の宿泊者数が 255 万人を超え、過去最高を記録しました。特に欧米豪や東南アジアからの訪問が増加しており、本県の国際的なプレゼンスは一層高まっています。

このような国際的な注目の高まりは、観光にとどまらず、地域社会のあり方そのものに新たな可能性をもたらしています。私たちは、多様な価値観や文化、考え方に対して開かれた姿勢を持つことこそが、地域の持続的発展に不可欠であり、新たな価値を生み出す原動力になると確信しています。そこで本県では、年齢や国籍を問わず、誰もが活躍できる「共生社会」の実現に向けて、官民一体となった挑戦を続けています。

国際交流の分野では、「姉妹都市 2.0」を掲げ、儀礼的な形式から脱却し、人的交流を通じた価値創造を重視した取り組みを推進しています。2025 年には、中国・四川省との友好県省締結 40 周年を迎え、東京での交流イベント開催や、同年 10 月の現地訪問団派遣を通じて、文化・産業・教育分野における官民連携の深化を図りました。さらに、姉妹都市以外との連携も積極的に展開しており、2024 年 12 月には、インド・ウッタル・プラデーシュ州と基本合意書を締結しました。グリーン水素技術、文化・芸術、青少年交流、企業間連携など多岐にわたる分野で協力を進めています。加えて、2025 年 8 月には県内経済界主体による「山梨県インド友好交流協会」が設立され、民間レベルでの企業進出や人材交流の基盤づくりが始まっています。今後も、姉妹都市との関係強化はもとより、世界が注目する成長著しい国々との連携を深め、互いに利益をもたらす実質的な交流を通じて、新たな価値の共創を目指してまいります。

一方で、地域に根ざす外国人住民に「第二のふるさと」と思ってもらえるよう、生活支援にも力を入れています。外国人の皆様は、日本人とは異なる視点や経験を持つ「集合知」の担い手であり、地域に新たな価値をもたらす存在です。本県では、地域日本語教室の充実、適正な労働環境の整備、生活情報の多言語提供など、外国人の皆様が安心して暮らし、活躍できる環境づくりを進めています。また、地域行事への参加や異文化理解を深めるイベントを通じて日常的な交流を促進し、日本人の意識改革にも取り組んでいます。さらに、外国人に対する偏見や悪いうわさを客観性のある正確な情報で打ち消す「反うわさ戦略」の手法を学ぶワークショップや、外国にルーツを持つ未就学児とその保護者への支援と交流を推進する「国際保育」など、全国に先駆けた取り組みも積極的に展開しています。

これらの取り組みを通じて、すべての人がそれぞれの希望に応じて就労や地域活動に参加し、社会の担い手として活躍できる共生社会の実現を目指し、これからも歩みを進めてまいります。